

## 学生ボランティア活動報告

### 英語サークル

#### 森田地区児童館における英語教室

生活科学学科 生活情報専攻 1回生 大門 友美

私たちは、2018年8月6、8、9、10日に英語サークルでの活動の一環として森田地区にある全5箇所の児童館で英語教室を開催しました。どのようにすれば小学生に英語を学ぶことの楽しさを教えられるのかを考えると面白い機会となりました。

児童館では、まず色を題材とした英語の絵本を読み、一緒に音読をすることによって英語に親んでもらいました。

内容は先生と話し合いを重ね、今年のテーマは「マジック」に決まりました。子どもたちがケガをしないように安全で簡単なマジックを行うことにしました。紙やストローやペットボトルなど身の回りにあるものを使ってマジックはで



きないかと試行錯誤した結果、紙で作ったサイコロの数を増やすというマジックと、絡めた2本のストローを外すというマジック、ペットボトルの飲み口に10円玉を置き密閉しているところを紙で隠してペンを貫通させるマジック、何も入っていない透明のコップに紙をかざすと動物の消しゴムが出現するというマジックの計4種類のマジックを行うことにしました。児童館にいる子どもたちを4つのグループに分けて、これらのマジックを行いました。そして、全員でするマジックとして白色と自分で選んだ色の2種類の毛糸を使い、もともと手に持っていた白色の毛糸が一瞬で、自分が選んだ色の毛糸に変わるというマジックを行いました。白色以外の毛糸は、赤、青、緑、黄色、ピンクの5種類を用意し、この中から英語で自分の好きな色を答えてもらい渡しました。この時に使った2種類の毛糸は思い出として持って帰ってもらいました。英語教室では、みんな楽しそうにマジックを行っていました。

簡単なマジックとはいえ、友達の前で行うのは緊張したと思いますが、マジックが成功した時の子どもたちの笑顔は可愛くて、私たちもとても嬉しく感じました。児童館に行く前は、子どもたちが楽しんでくれるのか不安でしたし、英語をきちんと話してくれるのか不安でした。しかし、マジックを見た時の子どもたちの驚いた顔や、マジックを自分一人で行い成功した時の嬉しそうな顔を見るたびに不安は徐々になくなっていきました。英語を積極的に話してくれる子どもたちもたくさんいて嬉しかったです。

今回の活動は、私にとってとても良い経験となりました。

### パソコンボランティアサークル

仁短パソコンボランティアサークル(以下、パソボラ)は、鯖江市社会福祉協議会鳥羽事業所「なかま」にて、2ヶ月に1回程度のペースで「障がい者のためのパソコン相談会」を主催する等の活動をしています。

#### ●サークル長：小川日子（生活情報専攻2年）

2回生になってすぐ、田中先生に声をかけていただき、パソボラに参加しました。私は視覚障がい（弱視）の女性の方をサポートしました。障がいのある方と1対1で話すのは初めての経験で、すごく緊張しましたがとても気さくな方でたくさんお話をし、すぐに打ち解けることができました。関わっていく中で、目が見えなくてもできることはたくさんあることに気付かされました。

弱視の方が活動する幅を狭めないために、すべてを手伝うことはせず、必要な点のみ適切に支援することが大切だと学びました。

社会人になると様々な人と関わっていきますが、その前に障がいのある方を支援する経験をし、いろいろな視点を身につけることができました。はじめは私の住んでいる鯖江にて、このような活動をしていると知り興味を持ったため参加しましたが、パソボラで出会った人たちのお蔭で自分自身が成長することができ、本当にこのサークルに入って良かったと思います。

●会計担当：下村由依（生活情報専攻2年）

私はパソボラでPCスキルを人に教えることを初めて

体験しました。障がいがある方のペースに合わせて、Excelの問題集をみながら問題を解いていきました。1つの問題をひとつひとつ手順にそって教えることにより、私も表計算の問題を再確認でき、自分自身の復習ができ、勉強になりました。

パソボラに参加し、気づいたことがあります。それは何でもかんでも手伝うのではなく、障がいのある方ができそうなことはそっと見守ることも大切だということです。私が障がいのある方のできることを奪ってしまった！と思う部分があり、手伝いすぎるのはダメだなと気づきました。気づいてからは障がいのある方のできることを増やすお手伝いをしようという心がけでボランティアに参加することができました。

折り紙サークル

幼児教育学科 2回生 中村 初音

私たち折り紙サークルは、昼休みに集まり楽しくおしゃべりしながら活動を行っています。主な活動としては、「季節の壁面づくり」です。病氣と闘う子ども達に少しでも季節の移り変わりを感じてもらえるように季節に合わせた壁面を毎月製作し、病院へと送っています。折り紙サークルの名の通り、壁面には簡単な折り紙を取り入れ、壁面を通して日本の美しい四季に興味を持ってほしいという思いで活動に取り組んでいます。壁面というと、平面であることが多いですが、あえて雲を綿で表現したり立体の折り紙を使ったりすることで壁面に形を持たせ実物に近づけようと工夫しています。



また、活動時間以外にボランティアにも参加しています。夏休み期間には、森田公民館で地域の子も達やお年寄りの方々に折り紙を教えるという活動を行いました。普段は「教わる」立場である私たちにとって、このボランティアは「教える」ことの大変さを実感し学ぶことの出来る良い機会となりました。

折り紙サークルの活動を通して「折り紙の知識」が身についたのはもちろんですが、それと同時に「団結力や協力する心」など多くの力が身についたように思います。サークルでの経験は楽しいことばかりですが、社会に出てから必要となる力が身につく素晴らしいサークルです。私自身、折り紙サークルで活動することが出来てよかったですと思います。